

村の方々のお知恵をお借りしながら、活気ある村づくりに貢献します！



文学部3年 鎌倉啓伍さん

■「農業×地域おこしでむらの未来を変える」をテーマに活動する東京大学のサークル。飯館村では令和元年度から、蕎麦の栽培を通じた交流、「人」を伝える冊子の作成などを行ってきました。

### 東大むら塾 飯館班



村民を取材した「いいたてむらびとずかん」1・2に続き、今年度は「行政区」を取材中。



### 大阪大学 浜通り環境放射線研修



9月は第2班の35人が来村。採取した土壌や植物を試料として整え線量を測定。データを蓄積しています。

### 農林サークル福桃 飯館村班



東大むら塾と共同で行う花壇設置のプロジェクト。村民の協力を得ながら資材を調達し木枠も製作しました。

現在は指導学生として運営にも関わり4年間通っています。景色の変化に復興を実感します。



工学部4年 登尾悠平さん

■風評もある中で環境放射線の影響を科学的に判断できる人材を育てることが、目的の一つ。研究者のつながりで、研修には学外の学生も参加しています。今年度は学内84人、他大学から29人、海外からも10人が参加。

村の方々のおかげで、いつも充実した活動ができています。ありがとうございます！



食農学類2年 石田未優さん

■食農学類が開設された令和元年に一期生が立ち上げた福大初の農業系サークル。大学近くの畑で農作物を栽培している他、県内各地の農家を手伝う「援農活動」を行っています。飯館村での活動は、初期から継続しています。

学び、寄り添う、学生たちのエールをお伝えします

# 飯館村×大学生

9月に開催された「福島飯館学生サミット」の参加団体、さらには村をフィールドとする大学について、その一部を紹介します。



学生主催の交流会

学生サミットにて、団体を横断してグループに分かれ議論を行った後の共有の時間。飯館村でつながった学生の皆さんが、互いの声に耳を傾けます。それぞれの関わり方で、飯館村を見つめている学生の皆さんの想いが重なり合う場面でした。飯館村や活動する他の県内被災地とどのように出会ったのか、なぜそこで活動を続けているのか。真つ直ぐな言葉の一つひとつが私たちにエールのようでもありました。

## 飯館村で、話そうー 福島飯館学生サミット

9月19日・20日に、「東大むら塾」主催の「福島飯館学生サミット」が、飯館村地域防災センターで開催されました。飯館村や県内各地で、被災地域・農村地域の学習・実践を行う大学生が集まり、それぞれの取り組みについて語り、課題を共有しようというもの。杉岡村長も招きにに応じて来場し、「皆さんの存在から元気をもらっています」と感謝を伝え、議論にも参加しました。参加団体は、「東大むら塾 飯館班」の他、「福島大学・農林サークル福桃」「大阪大学・浜通り環境放射線研修」「大阪大学・浜通り地区復興支援サークル はまでいず」「慶應義塾大学公認学生団体S.A.L.あじさいプロジェクト」などで、互いの活動を伝え合い、テーマを設けて議論を深めました。

車座での議論



「きっかけも関わり方もそれぞれですが、違うからこそ話を聞きたいし、理解をしたい」。議論の場は、静かな熱気に包まれ、学生の皆さんが自らと飯館村について語り合っていました。「生懸命な人がたくさんいて、面白い村だと思えます」「村の皆さんと話すのが復興のその先を見据えていると感じます」「初めは何か力になれたらと訪れたのですが、村づくりにかける人たちの情熱に驚きました。現地に来なければ分からなかったことです」「未だに福島＝復興＝原発のようなイメージがこびりついています。地域の人の力強さを伝えて、イメージを変えていきたい」。